旭化成に学ぶ
知財×生成AI戦略

「効率化」から「価値創造」へのパラダイムシフト

経営・事業を動かすIPランドスケープの最前線



Gemini Notebook

戦略の3本柱：旭化成アプローチの解体構築



組織

経営直轄への配置転換。2022年に「知財インテリジェンス室」を新設し、知財を研究開発の下部組織から経営企画の直下へ引き上げ。



技術

二層構造のハイブリッドAI環境。高セキュアな社内LLM基盤と、Patsnap/Speeda等の特化型SaaS、そして独自のNLPツールを業務に併せて使い分け。



評価

時間の「再投資」モデル。AIによる時短を目的とせず、浮いた時間を「試行錯誤」と「事業部との対話・提案」に全振りする評価軸の転換。

Gemini Notebook

効率化の罠からの脱却：再投資ループ



調査・分類・要約の
圧倒的低コスト化
（例：候補選別時間を
従来の約40%に短縮）

「えぐり出すような
質問力」による
事業部との対話。
シナリオ構築と
仮説検証の高速回転

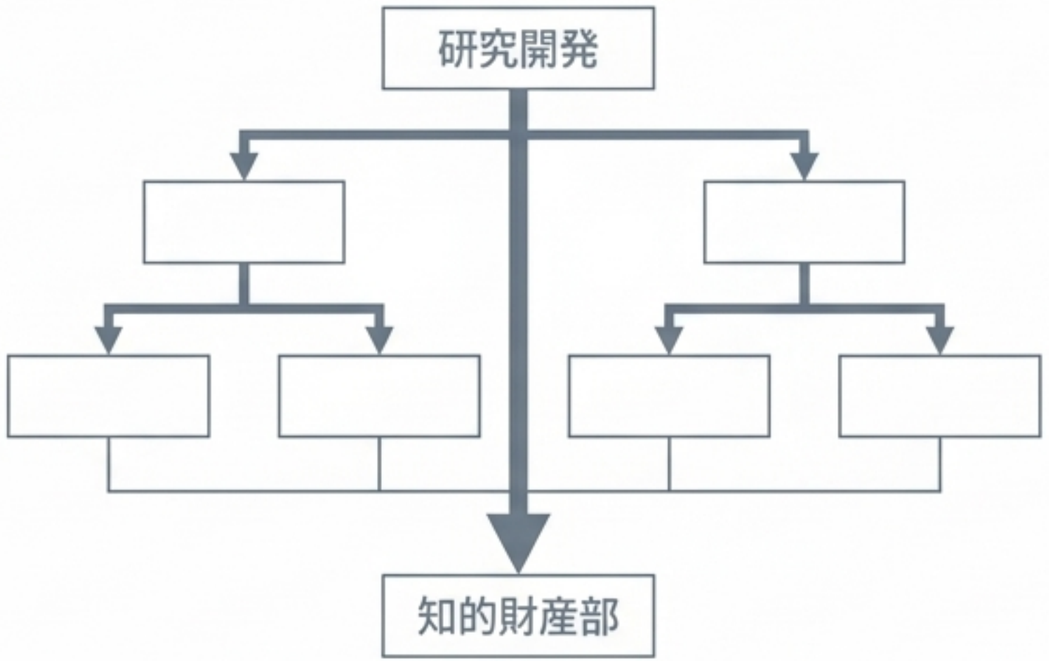
意思決定を動かす
高インパクトな提
案。報告書の精緻
さではなく「採用
率」で質を測る

Gemini Notebook

組織配置のトランスフォーメーション

**AIの分析スピードを経営の意思決定に直結させるには、
知財部門の物理的・構造的な「配置」が前提条件となる。**

Before



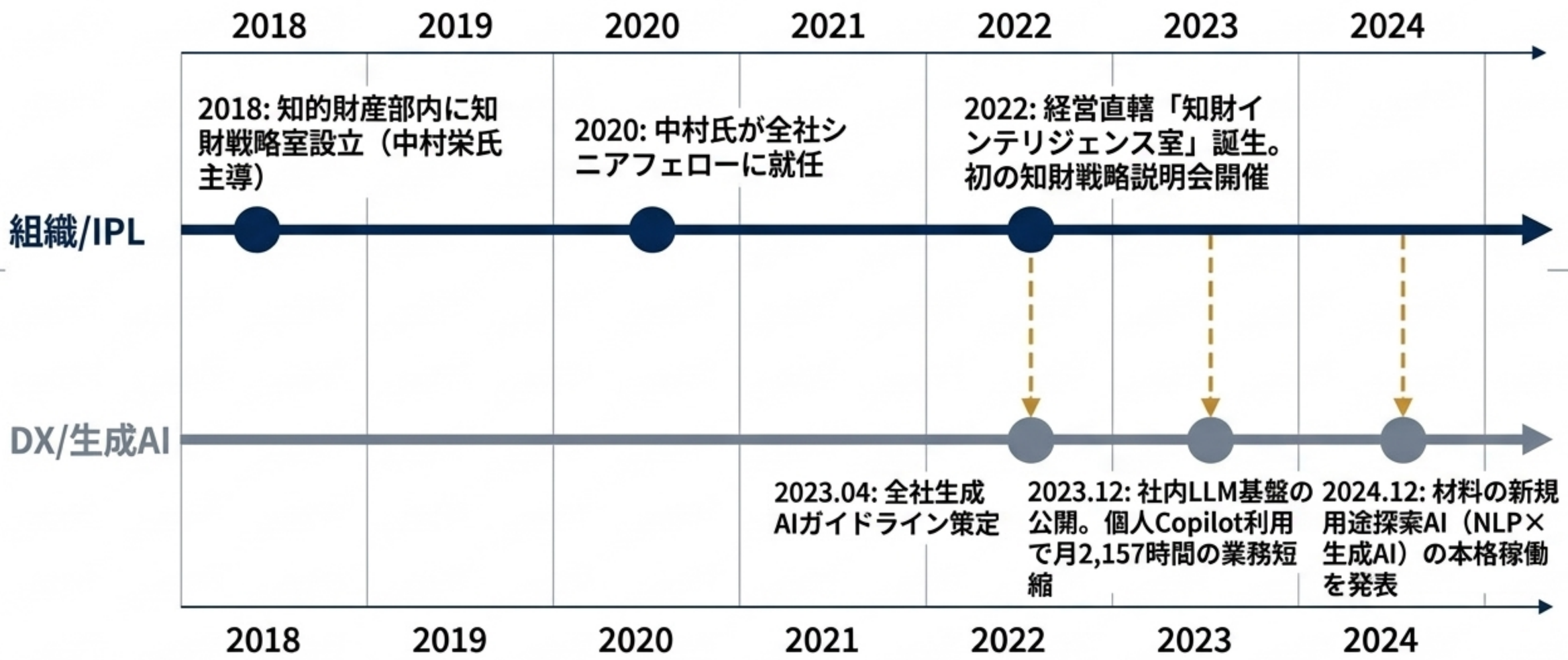
After (2022)



- 2018年: 知財戦略室（IPL機能）の設立
- 2022年: 経営直属の「知財インテリジェンス室」新設
- ミッション: 無形資産を活用した新事業創出と
  ビジネスモデル策定への直接貢献

Gemini Notebook

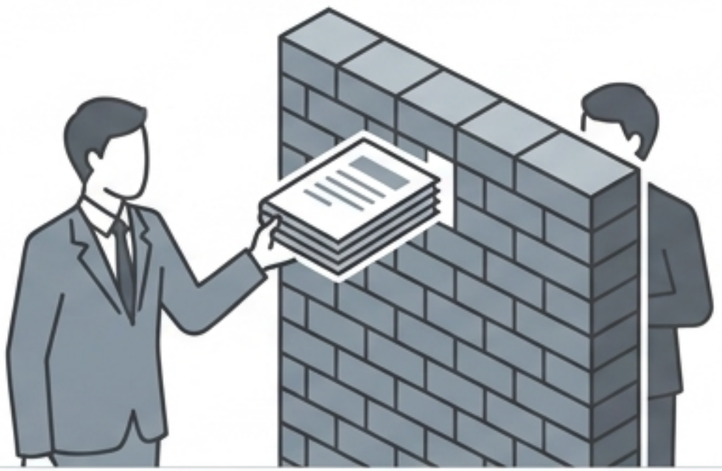
組織と技術のデュアル・トラック進化



Gemini Notebook

IPLの魂：「Report to」の哲学

従来型：Report About



レポートを出して終わる一方通行の報告。
断片的な特許情報のみの提供。

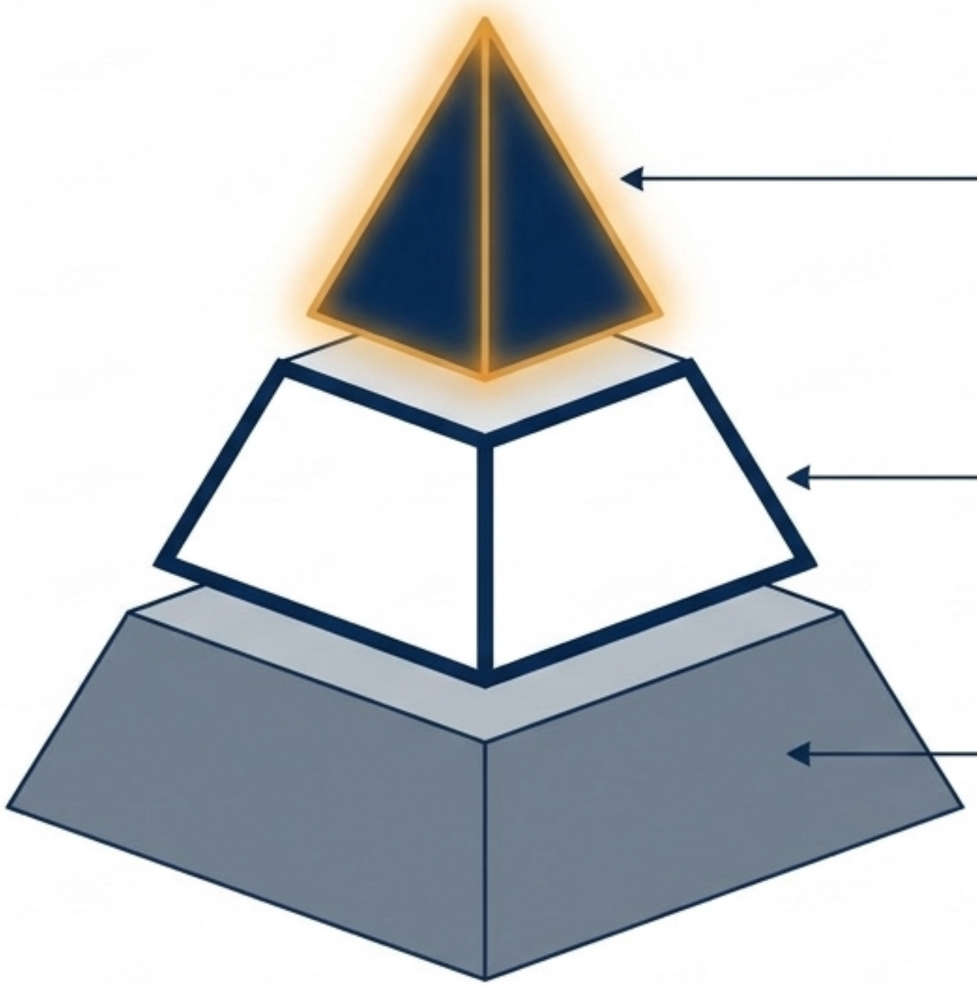
旭化成IPL：Report To



行動まで支援し、意思決定を促す。
事業部との共同テーマ検討や、「えぐり出すような質問力」による潜在ニーズの引き出し。
黒子として事業部に「そっと」渡す姿勢。

Gemini Notebook

ハイブリッド生成AIテクノロジースタック



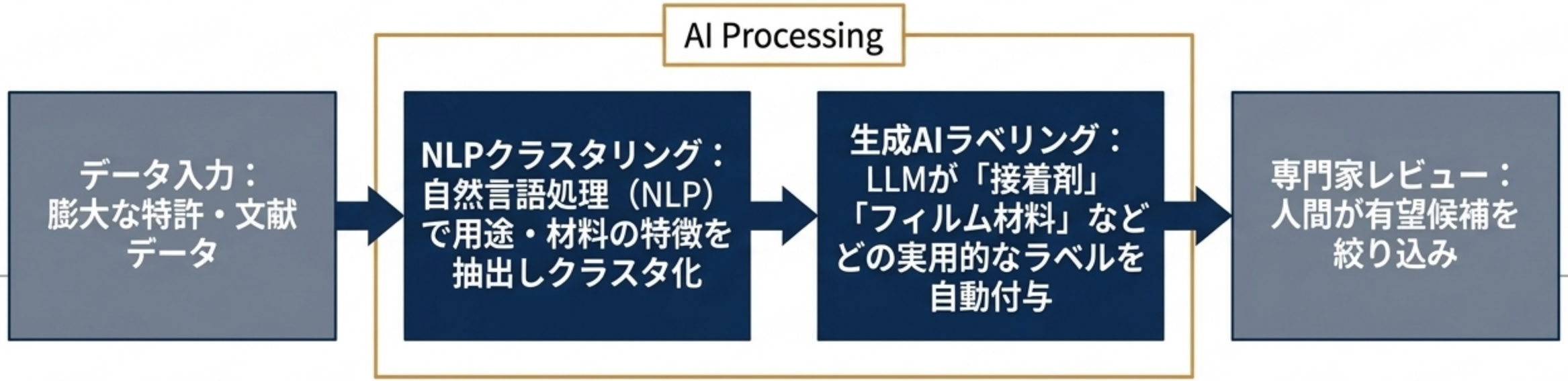
独自ワークフロー - 攻め:
業務要件に合わせた独自開発AI。
デジタルプロ人材（2024年度目標2,500名）と専任組織が協働開発。

特化型SaaS - 探索: 外部の特化型ツール。
市場情報抽出（Speeda）、特許価値分析（PatentSight）、新規性/FTO調査エージェント（Patsnap Eureka）。

社内基盤 - 守り: 高セキュアな自社専用LLM基盤。未公開データや特許明細書作成などの専門業務に活用（2023年実装）。

Gemini Notebook

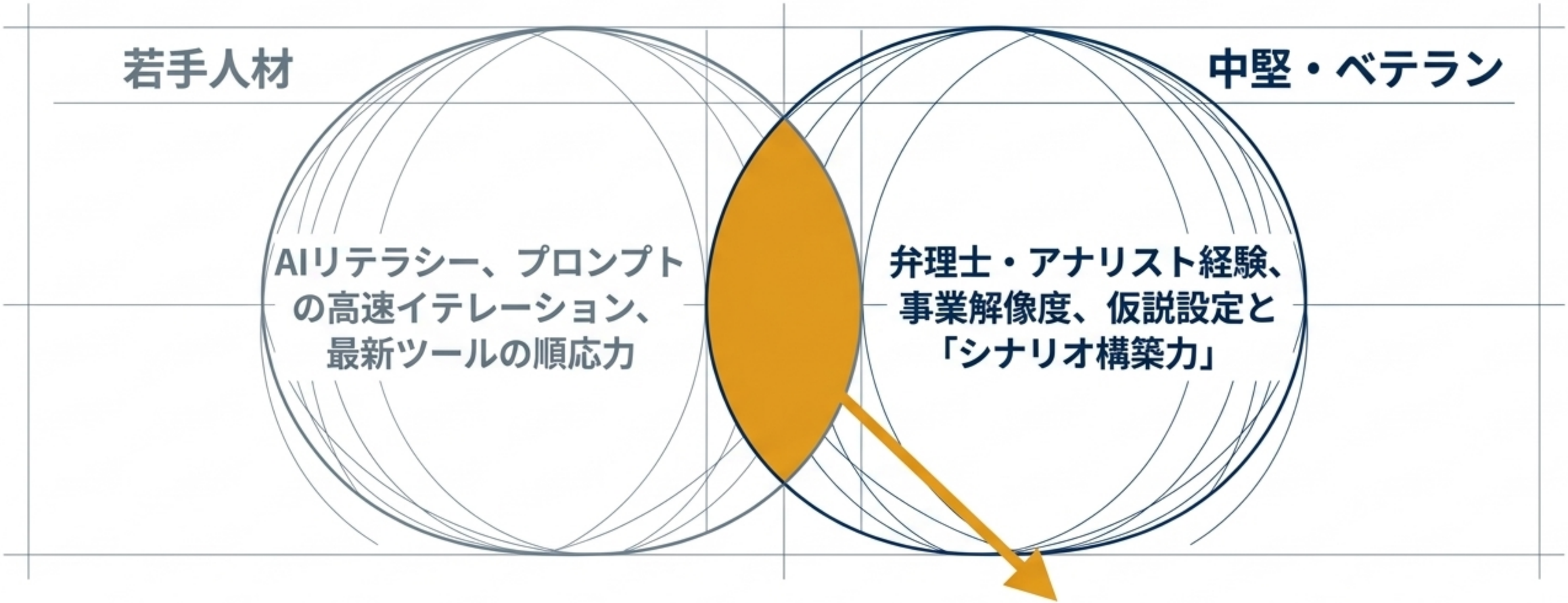
実践事例：新規用途探索AIの衝撃



6,000以上の新用途候補を考案。
候補選別にかかる時間を
「約40%」に劇的短縮。

Gemini Notebook

人とAIの共生：チームデザイン



旭化成の狙い: 「AIが集める・分ける」を代替する分、若手とベテランをペアリングし、若手にも早期から経営・事業部への報告経験を積ませて検証力を育成する。

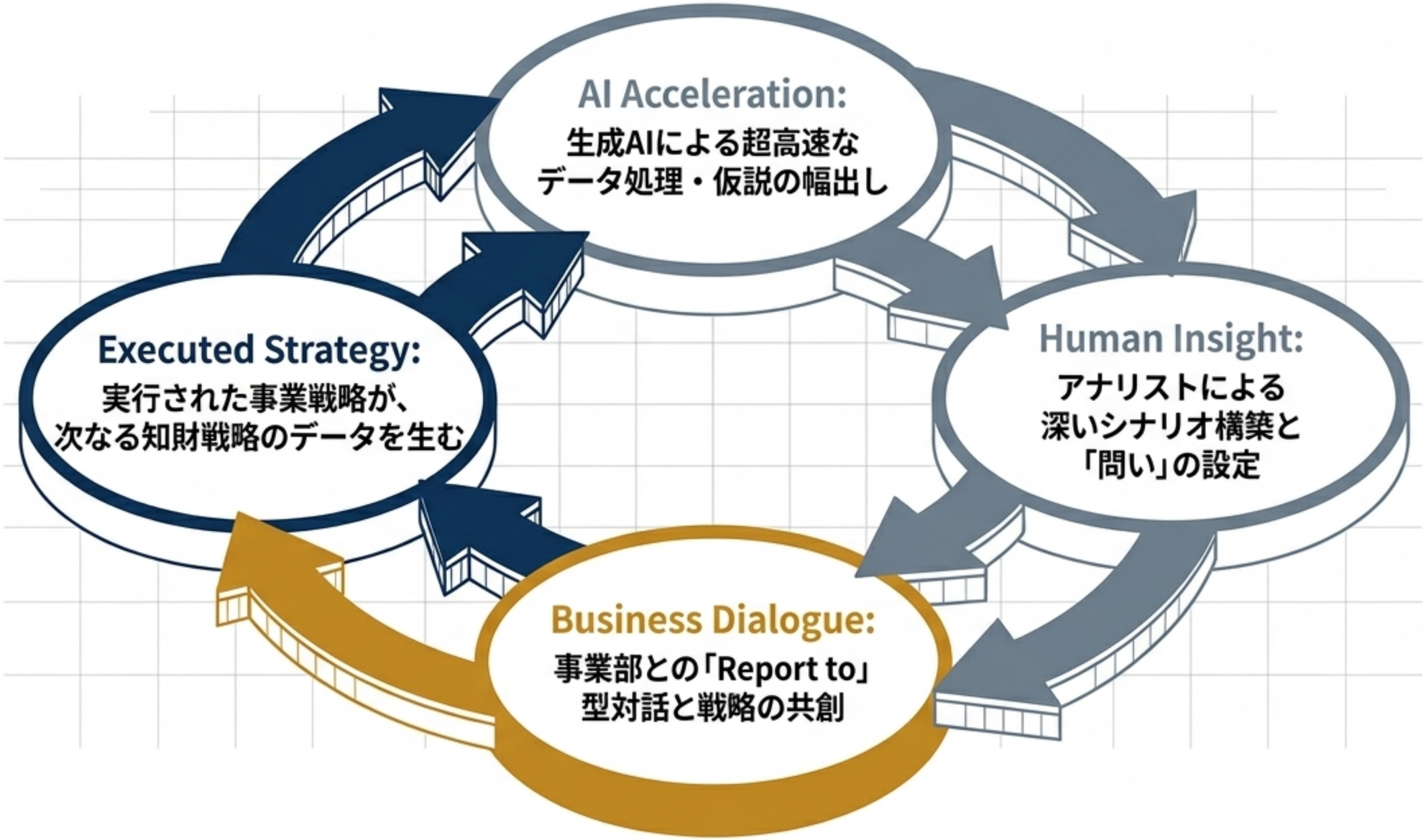
Gemini Notebook

戦略ポジションの比較分析

比較軸	従来型知財	ダイキン工業モデル	旭化成モデル
主目的	権利保護・防衛	全社のAIツール民主化	経営・事業の 意思決定支援
AI活用スタイル	局所的な 業務効率化	ツール化し 全社展開	アナリストの対話力・ シナリオ構築力との結合
差別化要因	専門知識	AI専門家と 知財の協働体制	経営直下の組織配置と 長年のIPLの「型」
評価指標	出願件数・ コスト削減	ツールの 社内普及率	提案の採用率と 事業インパクト

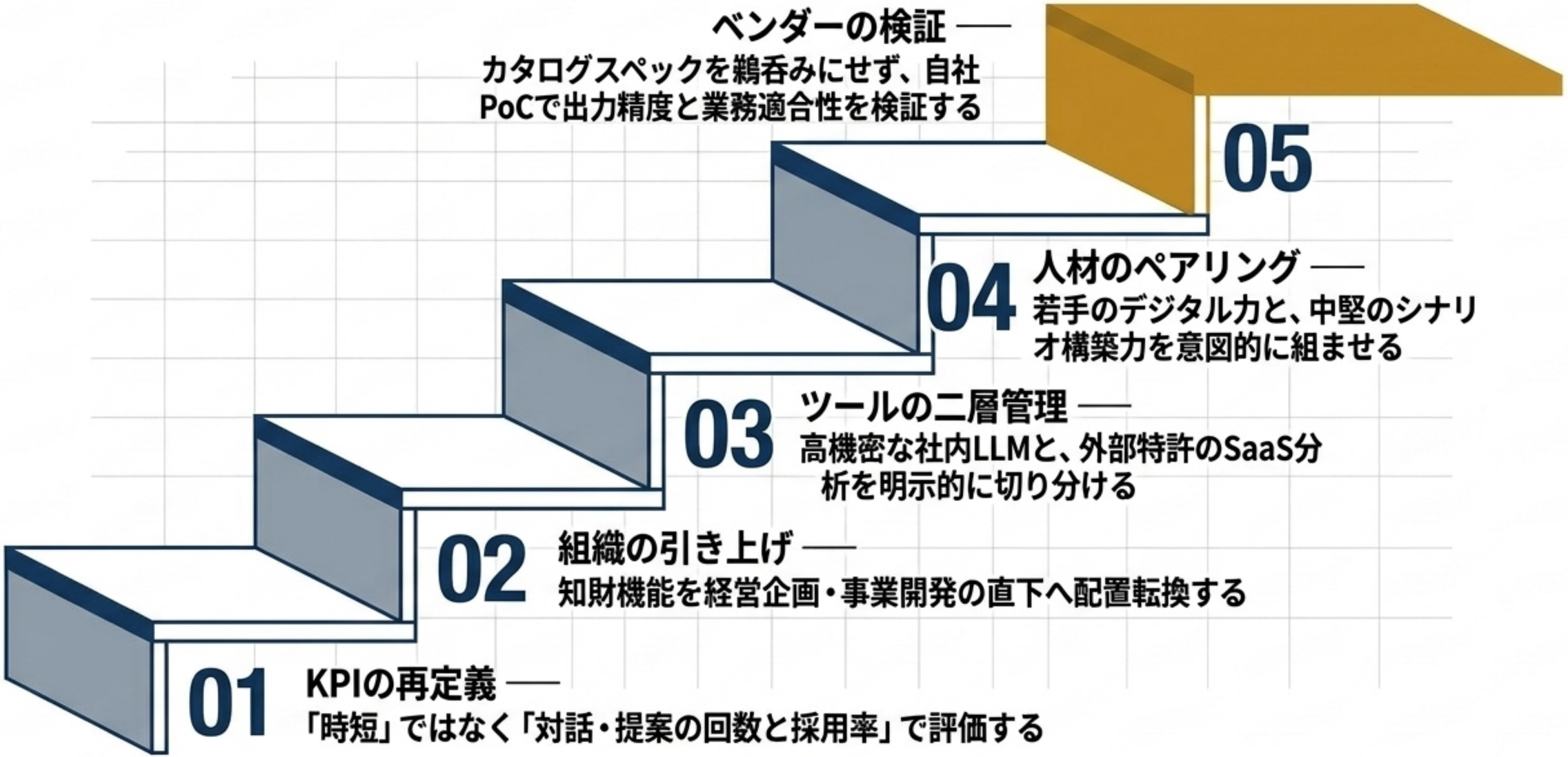
Gemini Notebook

知財×AIのバリュー・フライホイール



Gemini Notebook

IPリーダーのための5ヶ条



01 KPIの再定義 ——
「時短」ではなく「対話・提案の回数と採用率」で評価する

02 組織の引き上げ ——
知財機能を経営企画・事業開発の直下へ配置転換する

03 ツールの二層管理 ——
高機密な社内LLMと、外部特許のSaaS分析を明示的に切り分ける

04 人材のペアリング ——
若手のデジタル力と、中堅のシナリオ構築力を意図的に組ませる

05 ベンダーの検証 ——
カタログスペックを鵜呑みにせず、自社PoCで出力精度と業務適合性を検証する

Gemini Notebook

リスクマネジメントと盲点

ハルシネーション

出典追跡と人間による最終検証を業務フローの「必須工程」に組み込む。

情報セキュリティ

未公開情報や戦略の外部SaaSへの入力制限。データの学習利用・保存ルールの厳格化（※直近の元社員による機密情報持ち出し事件等、情報管理への社会的監視は最高潮に達している）。

人的資本の空洞化

AIが「集める・分ける」を代替する結果、若手が下積みで得ていた「特許の読解力」が育たないリスクへの対処。

キーマン依存

IPLを牽引した中村氏（2026年退任）の属人的な「思想と型」を、次世代の組織知としてどう制度化するか。

Gemini Notebook